

令和 6 年度病床機能再編支援事業 事業計画書

1 医療機関の概要

医療機関名	宇野内科医院
所在地	大分市萩原 1 丁目 17 番 4 号
開設者	医療法人 雄飛会
管理者	理事長 宇野元博
許可病床数	一般 19 床
診療科目	内科、胃腸科、循環器科、呼吸器科
沿革等	昭和 54 年 3 月 1 日に開設し、現在に至る。

2 病床削減の内容

- ・削減の内容 一般病床
一般病床 19 床をすべて削減
- ・削減病床の現在の運用
19 床すべて急性期病床として運用
- ・削減後の病床の運用
一般病床 19 床をすべて削減し、無床診療所として運営します。
今後は病床のあったスペースを発熱外来用の待合室、訪問診療のための事務室、発熱者専用点滴室、その他静養室、臨床検査室、職員休憩室、その他や倉庫などに改装し運用する予定です
- ・削減の時期
2024 年 3 月末日
- ・削減後の診療所の運営方法
限られた医療ソースをより効果的に活用するため、かかりつけ医としての外来機能強化と在宅療養支援診療所としての訪問診療の強化を行っていきます。

3 病床削減の理由とその効果

・削減に至った経緯

これまで当院は地域医療計画に基づき、地域の医療ニーズに応じた提供を心がけてまいりましたが、最近の地域の医療状況や患者の要望の変化を踏まえ、今後の当院のあるべき状況の見直しを行った結果、有効な医療ソースの再配置が求められると判断いたしました。具体的には地域の入院ニーズの低下と、かかりつけ医としての機能強化、長く安心して通院出来るための在宅医療や介護サービスの重要性が求められており、これらを重視した結果、病棟閉鎖に至りました。今後も引き続き、患者のニーズに応じた適切な医療サービスの提供に全力を注ぎ、地域社会における健康づくりに貢献してまいります。

・削減が地域医療構想を推進に資するものであることの説明

地域医療の効率向上を考えた場合限られた医療ソースを効果的に活用する事が望めます。当院では基幹病院と連携したかかりつけ医としての機能、発熱外来など地域が必要とする外来機能、在宅支援診療所として安心して長期に渡って医療を受けることが出来る訪問診療を柱に、地域での役割を果たしていきたいと考えております。当院における病床の削減は在宅医療や介護ケアへのシフトを促進します。患者が自宅で適切な医療を受けることで、医療サービスのアクセスが向上し、地域全体の医療ネットワークが強化されます。地域連携や多職種連携を強化した診療所を目指します。

4 支給額の算定

許可病床数	19床
稼働病床数	急性期 19床
病床削減後の許可病床数	0床
削減病床数	19床
年間在棟患者延べ数	4,863人
病床稼働率	70.1%
1日平均実働病床数	13床
支給単価① (一日平均実働病床数までの削減分に係る支給)	1,824(千円)
支給対象病床数(①該当分)	6床
支給単価② (一日平均実働病床数以下の削減分に係る支給)	2,280(千円)
支給対象病床数(②該当分)	13床
<u>支給申請額</u>	<u>40,584(千円)</u>

※病床数等は平成30年度病床機能報告に基づく。

令和6年度病床機能再編支援事業 事業計画書

1 医療機関の概要

医療機関名	社会医療法人三愛会 庄内診療所
所在地	大分県由布市庄内町柿原 280-1
開設者	社会医療法人三愛会 理事長 三島康典
管理者	狩峰 信也
許可病床数	一般 19 床
診療科目	内科、消化器内科、外科、消化器外科、整形外科、リハビリテーション科、こう門科
沿革等	1987 年 旧庄内町の要請により開院 19 床 2006 年 12 月 院長交代 (狩峰信也) 2024 年 2 月 閉院予定

2 病床削減の内容

庄内診療所は 19 床の病床を有している（急性期機能）が、令和 6 年 2 月に閉院することとなり、法人内における病床機能再編の一環として、回復期機能に転換した上で法人内施設（たばるクリニック 大分市田原字深田 936-1-1）へ移設することとする。移設後残る病床（8 床）は廃止する。

- ・削減の内容

庄内診療所 19 床（急性期）⇒ 0 床（閉院後、11 床をたばるクリニックへ統合し、8 床は廃止予定）
たばるクリニック 8 床（休床中）⇒ 19 床（回復期機能として運用）

- ・病床の現在の運用

紹介入院や施設からの急性増悪患者受け入れを行っている。

- ・削減後の病床の運用

同一法人内のたばるクリニックにて病床再編を行う（回復期機能 19 床）

- ・削減の時期 令和 6 年度中

- ・削減後の診療所の運営方法

庄内診療所は閉院とし、職員は法人内事業所へ異動予定。

3 病床削減の理由とその効果

・削減に至った経緯

1987年7月、旧庄内町の要請により地域医療体制構築を目的とした庄内診療所を開設し、庄内地区のかかりつけ機能および急性期医療の中核として役割を担った。その後、近隣に同様の医院や在宅専門クリニック等が相次いで開院し、庄内地域の医療体制も充実したため、約40年の歴史に終止符を打ち、法人内における病床機能再編の一環として、回復期機能に転換した上で法人内施設へ移設することとした。移設後残る病床（8床）は廃止する。

・削減が地域医療構想の推進に資するものであることの説明

人口減少が進んでいる地域であることから医療ニーズが減少しており、中部医療圏の中では病床削減が可能な地域であると考え庄内診療所の急性期病床を削減する。

一方で法人内の病院（大分三愛メディカルセンター）が位置する植田地域は医療ニーズが高く、病院で急性期医療を終えた患者を引き継げる回復期機能の病床が不足している。田原地区の法人施設（たばるクリニック）に病床を移設し回復期機能を有する有床診療所とすることで、急性期医療を終えた患者を引き継げる病床を確保する。本件の病床機能再編により地域医療ニーズに合った運営を行っていく。

4 支給額の算定

許可病床数	19床
稼働病床数	急性期 19床
病床削減後の許可病床数	0床
削減病床数	19床 (うち11床は他院へ融通)
年間在棟患者延べ数	5,498人
病床稼働率	79.2%
1日平均実働病床数	15床
支給単価① (一日平均実働病床数までの削減分に係る支給)	1,824(千円)
支給対象病床数(①該当分)	4床
支給単価② (一日平均実働病床数以下の削減分に係る支給)	2,280(千円)
支給対象病床数(②該当分)	4床
<u>支給申請額</u>	<u>16,416(千円)</u>

※病床数等は平成30年度病床機能報告に基づく。